

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300038		
法人名	(株)VAN		
事業所名	海の見えるグループホームしおさい		
所在地	山口県山口市秋穂西3317-1		
自己評価作成日	令和 3年11月25日	評価結果市町受理日	令和4年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに大きな山や川がなく、南側は穏やかな瀬戸内海の入江であるため、眺望良く、土砂災害の危険性が少ない。直ぐ南側下には車エビの養殖池が続き、防波潮堤となっている。天気が良ければ朝から夕方まで陽光を浴びられる。食堂のある中央ホールは広くて天井が高く開放感があり、会議や行事の時には、東西の仕切りを畳んで収納すれば広大なホールになる。毎週(日)は「ドライブの日」で3～6名/台で東・西合計で平均17便/月。新型コロナ蔓延中でも、他人の居ない柿もぎ・栗拾い・無人の海辺などへ行きました。電気自動ピアノがあり、FDに220曲入れていて毎日3回のラジオ体操の後に各20曲位歌唱。演奏者に空き時間があれば生演奏しています。毎日の昼夕食の汁物と朝食は材料からの調理。新型コロナ禍無ければ10月「しおさい祭り」御家族と演芸会と昼食。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が好きだという利用者に、朝焼けや夕焼けなど美しい自然を見ていただく機会をつくられたり、ピアノ演奏に関心を示される利用者をピアノのそばに連れて行かれ、伴奏に合わせて歌っていただくなど、日頃の利用者の言動や表情などから、思いの把握に努めて、その方の喜びにつながる支援をしておられます。毎日曜日のドライブの日の外出や、ケアの合間を活用したドライブ、柿もぎや栗拾いなど季節を楽しむ外出、浜辺やあぜ道の散歩など、外の景色や空気、風に触れられる機会を多く作っておられます。家族との窓ガラス越しの面会を支援され、再開の喜びにつながられたり、毎日の行事に体操と歌唱を取り入れられるなど、コロナ禍にあっても、工夫しながら利用者の楽しみごとを作っておられます。職員は利用者の安全や安楽を確保したいと話し合われ、社会福祉協議会からベットやリクライニング車椅子の提供を受けるなど社会資源も活用されながら、管理者やリーダーの指導の下、支援に取組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症対応型共同生活介護の意義を踏まえた運営理念と基本方針を玄関出入り口と事務所に掲示し職員全員が何時でも確認出来るようにしている。「短くしたら？」という声があり、一時は話し合いをしたが決まらず。しかし、その過程でその、思いは浸透している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回のユニット会議や2ヶ月に1回の全体会議で理念について話し合い、理念を実践につなげられるように努めている。職員は、利用者が自然に囲まれた環境の中で、地域の人と交流しながら、安全で健康に暮らしていけるように話し合い、利用者に寄り添った声かけや対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染予防対策のためしおさい祭りやボランティアの受け入れ、運営推進会議などはこの一年休止しているので、活動できていない。	自治会に加入し、職員は地域の掃除に参加している。コロナ禍により、地域防災会議やしおさい祭りなど、交流を伴う行事は中止となっているが、回覧板や電話で地域の情報を把握している。利用者は、散歩時に出会った近隣の人と、距離を取りながらあいさつを交わし、花や野菜、パンや菓子などの差し入れを受けるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染予防対策のため運営推進会議などはこの一年休止しているので、活動できていない。が、散歩の折には、地域の方々と明るく挨拶をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者より評価の意義について説明し書類を配布し記入をお願いした。意義は概ね理解出来ているようだ。	管理者は、全体会議やユニット会議で評価の意義を職員に説明し、評価をするための書類を全職員に配布して、職員が記入したものを管理者がまとめている。職員は評価を通して、日々のケアに加えて、利用者の目線での部屋づくりや、家族や地域と協力し合って支援することの大切さなど、課題や新たな視点に気づいている。管理者は前回の外評価結果を受けて、応急手当や初期対応の研修を行うなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防対策のため運営推進会議などはこの一年休止しているので、活動できていない。5月・11月には様子の報告をしている。	会議は年6回開催していたが、この1年はコロナ禍により中止している。年2回(5月、11月)資料を送付し、利用者の状況や活動報告、感染症対策などについてメンバーに報告している。	・メンバーから意見を得るための工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書類や介護保険サービス利用にあたり疑問があった時には電話やFAX、介護保険課を直接訪問する等、その度に連絡し協力関係を築いている。川東地域包括支援センターとは時々連絡を取り合っている。山口社会福祉協議会とは権利擁護で、社会課とは生活保護で、行き来がある。	市担当者とは、事務の申請で直接出向いた時や電話、FAXなどで相談して助言を得るなど、協力関係を築くように努めている。地域包括支援センター職員とは、電話や直接出向いて、入居の問い合わせ等の情報交換し連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所が道路に面しているため玄関には施錠しているが外出希望者や出来るだけ多くの入居者に散歩や外出の声掛けをしている。研修の結果、理解が進み、しっかり実践できており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束等適正化のための指針」があり、ユニット会議の中で、身体拘束や虐待について学ぶ機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日常業務の中で管理者やリーダーが、スピーチロックやフィジカルロック、ドラッグドックなどについて指導している。玄関には施錠しているが、南側の庭には自由に出られるようにしている。散歩やドライブなど、多くの外出の機会を作り、外に出たい利用者がいる時には、職員が一緒に出かけるなど、閉塞感のない生活が送れるよう支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修では、虐待に至る背景も含めので考察を加えており、意識は浸透し、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先日より、新たな権利擁護利用が始まり、理解が深まって来ている。入居者の対応をしている後見人と電話や面談で情報交換を行って、ケアに役立てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書と重要事項説明書を交し理解納得を得られるよう、洩れなく行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族から意見や相談が寄せられた場合には即時管理者に報告し対応するようにしている。今期は、意見や要望がなかった。	相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きを「重要事項説明書」に明示し、家族に契約時に説明している。玄関に苦情の受付箱を設置している。2か月ごとに事業所だよりで本人の様子を家族に伝え、面会時や受診の送迎時、ケアプラン送付時、電話、手紙などで、家族の意見や要望を聞いている。年1回、介護相談員が来訪し、利用者の要望や気づきを事業所に伝えている。意見や要望があれば、連絡帳に記録して共有し、会議で職員間で話し合っ、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月毎の全体会議、毎月のユニット会議があり、反映されていると思う。それ以外の時間でも管理者が発言の聞き取りを行っている。	2ヶ月に1回の全体会議や月1回のユニット会議、週1回、運営者が参加する月曜ミーティング、日常業務の中で、管理者やリーダーが職員の意見や提案を聞いている。職員の提案から、廊下に手すりを付けたり、社会福祉協議会からベットやリクライニング車椅子を提供してもらうなど、利用者の安全安楽のための福祉用具の活用につなげ、職員の休憩時間のとり方の改善など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記会議等で出た課題を理事会にお願いして、その都度対応してもらっている。職員の身体や家族の状況に合わせて希望勤務・希望休みを取り入れ働き易い職場作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	上記会議や研修等で無理なく、身体に染みこむように努めている。、	外部研修は、職員の希望や段階に応じて参加の機会を提供し、受講後は復命伝達をして情報を共有しているが、この1年は外部研修への参加はなかった。内部研修は、2ヶ月ごとの全体会議で管理者やリーダーが講師となり、判断と行動、入居者の対応、認知症、応急手当などについて実施している。新人には、管理者が働きながら学べるように指導している。資格取得のために、勤務表の調整、受講料、受験料の補助の支援を行っている。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染予防対策として現在行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の見学時に、本人家族から希望・要望・悩みを聞き、ここでの実現・解決に向けた道筋を説明している。また、前担当ケアマネ、施設、事業所職員からの情報提供を依頼しケアに役立てている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の見学時に、希望・要望・悩みを聞き、ここでの実現・解決に向けた道筋を説明している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の見学時に、希望・要望・悩みを聞き、ここでの実現・解決に向けた道筋を説明している。フェイスシート、現在のADLを書類として作成し必要とされる支援を見極めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にサービスを受ける形にならないようにし、一緒に家事・作業・レク・ドライブの中で、お話を聞く事で想いを汲み取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員は、時々御家族へ様子報告の連絡をして、お話を聞くようにしている。又、書類送付の際、近況の様子を手紙に書き、ご家族との情報共有を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染予防対策のためガラス越しの面会とし、直接の面談は今期、控えて貰っているが、「お手紙を書く」とか電話を掛ける、取り次ぐなどは続けている。	家族や親戚、近所の人、友人などのガラス越しの面会の他、電話や手紙、年賀状、暑中見舞いなどでの交流を支援している。事業所から自宅付近や馴染みの神社や公園などへのドライブを支援したり、家族の協力を得ての、自宅訪問など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。コロナ禍で面会は無理と思っている家族に、電話でガラス越しの面会ができることを伝え、10年来の再会を促して双方に喜ばれるなど、馴染みの人や場所との関係がとぎれないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくホールに出て来るようにして、日に3回の体操～歌唱やゲーム、食後ののんびり雑談を勧めている。入居者個々の性格や行動に注意し職員が間に入り仲を取り持っている。又、入居者同士で支え合う場面も見られ、和やかな場所作りが出来ている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後事務処理の折には、無難な話題も含めて、相談や家族の心のケアを含め支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人ご家族から思いや暮らしの意見意向の聞き取りを行いフェイスシート作成し思いに沿っていけるようケアプランを作成している。お部屋には、御本人の写真や作品を置くようにしている。	入居時に本人や家族から思いや暮らしの意向を聞き取り、フェイスシートを作成している。趣味や好きな食べ物、嫌いなことなどを「アセスメント表」に記録している。日々の関わりの中で利用者の発した言葉や様子、表情などを介護記録に記録して、ユニット会議で話し合っている。七夕の短冊に願いや希望を書いてももらったり、職員と1対1になれる入浴時に話をするなど工夫をしている。自然が好きだという話から、朝焼け、夕焼け、雲や月等美しい自然を見てももらったり、ピアノ演奏に関心がある利用者をピアノのそばに連れて行くと、伴奏に合わせて歌い始めたりするなど、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合はカンファレンスで職員間で話し合、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望の見学時に、これまでのご様子を聞きその良い面を、ここでの暮らしに続けられるような道筋・職員の手順などを説明している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集フェイスシートを活用し本人の様子を見て、夜勤からの申し送り、起きてホールに來られた時の様子、食事・排泄の様子などから、次第に把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例会議内や担当職員の意見、ケアマネと他の職員、御家族との意見交換を含めてのケアプラン作成に努めている。1ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に評価票にてケアプランチェックを実施している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを実施し、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考に、全職員で話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化が生じた場合は、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎に記録ファイルを作成し個別に保管している。又、申し送りシートを活用し情報共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くは訪問診療であるが、他の医療機関への通院介助、希望の品の買い物などを、行っている。一人一人の身体や認知症の状況に合わせたサービスが提供されている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防対策にて地域資源との協働には制限ある状況だが、それを補うよう豊かな創造力を入居者も職員もつくれるような活動を行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くは月2回の訪問診療であるが、他の医療機関への通院介助は行っている。受診時には職員から医師または家族への情報提供を実施し、受診結果は介護記録、連絡帳に記入し職員間で共有している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、月2回の訪問診療がある。歯科は必要に応じて往診がある。2週間毎に訪問看護師が来訪し、健康観察を実施している。定期的に受診支援を行う医療機関以外の受診は、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には職員から医師や家族に情報提供をし、受診結果は必要に応じて家族に電話をしたり、面会時に報告している。受診結果は、介護記録や業務連絡帳に記録して職員間で共有している。夜間や緊急時には看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	両ユニット合わせると毎週(火)に訪問看護があり、医療以外の出来事様子も報告している。異変や気づきがあれば随時報告・相談し、適切な受診・支援を受けられるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 r利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係作りを行っている。	入院時には家族から了承を得て情報提供を行っている。入院中は病院と情報交換や相談を行い関係作りに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に、制度の説明とそれが近くなつた時の様子などを説明している。身体状況報告をご家族に密に行い、重度化の場合には今後の方向性について考えて頂けるよう支援している。情報交換は充分に行い様々な方向にて支援に取り組んでいる。	契約時に本人や家族に「重度化対応、終末期ケア対応指針」や「重度化した場合における看取り指針」により事業所でできる対応について説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師と話し合い、看取りの対応や医療機関、他の施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットにて発生状況・対応を記録・回覧し事故防止に努めている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット、事故報告書に発生状況や対応、改善策を記録して回覧し、申し送りで伝えて職員間で共有している。月1回のユニット会議や全体会議で再検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。「事故防止マニュアル」があり、管理者が講師となり、救命救急研修を年1回実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接するデイサービスと共同で防災・消火・通報・避難訓練を行っている。緊急通報システムを活用し、通報・避難等の訓練、避難経路の確認、救命胴衣の着用方法など訓練している。	年2回、法人他施設と合同で、利用者も参加して消火、通報、避難経路の確認、避難誘導訓練を実施している。内1回は、高潮高波を想定した避難訓練と救命胴衣の着用訓練を実施している。2年前から運営推進会議のメンバーである消防署長に相談して、「災害マニュアル」を改訂している。今年は地域防災会議は中止となったが、地域の連絡網に加入し、地域の防災委員と事業所の避難経路を確認するなど、地域との協力体制を築いている。事業所が避難所になることを想定して飲料水や食料、カセットコンロ、ガスボンベを備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格性格生活態度パターンを把握し一人一人に合った声掛けの声のトーン言葉がけを工夫し対応をしている。	職員は日常業務の中で話し合い、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。命令口調、否定的な口調にならない、相手を敬い大切にするよう、親しみのある声かけを行っている。不適切な対応や言葉かけがあれば管理者やリーダーが注意している。個人記録の保管や取扱いに留意し、守秘義務を順守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを伝えやすいよう職員が気を配り入居者自身が決めることができるよう声掛けを実施実施している。出来る方には、職員任せにしないようお話をしている。が、それを「叱られている」と受け取っているかも。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体、支援出来ている。食事の時間、起床就寝時間、行事・レク参加の有無、入浴など希望を伺って、それに沿うよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由におしゃれを楽しめるよう、整髪剤やアクセサリー、服など、その方が好きなスタイルを出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や季節の料理、おやつを提供。アレルギーのある入居者にも配慮しながら食事提供し、一緒に調理・盛り付け・配膳・食器洗い・お盆拭き・掃除などをお願いしている。	毎食の御飯と汁物、朝食は事業所で調理している。昼食と夕食の副食は配食サービスを利用している。利用者は加熱調理、野菜の下ごしらえや盛り付け、お茶のバック詰め、テーブル拭き、台拭きや盆拭き、食器洗い、食器の片づけなど、できることを職員と一緒にしている。寿司の日、季節の行事食(おせち料理や七草粥、節句の寿司、クリスマスケーキ等)、誕生日のおやつ作り(ホットケーキ、ヨーグルト、ケーキのデコレーション等)、スイカ割、干し柿づくり、栗拾いで採った栗ご飯などで季節を楽しんだり、誕生会での利用者の好みの献立、テイクアウトの握り寿司、家族の協力を得ての受診時の外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居して少し経って箸が使えるようになり、次いでスプーンが少し使えるようになっている。伴って入浴もすんなり入るようになっている。一人一人の身体状況に応じ好みや食事形態の提供、水分補給が行われている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは全員しっかり丁寧に行っている。出来ない方は介助で歯の裏も。義歯の洗浄、コップ、ブラシも定期的に消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排尿・排便のリズムを把握しできるだけ自分で、介助が必要な場合のみ対応する等それぞれに合った支援を支援を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をしている。飲水の声かけ、水分摂取量の把握、ヨーグルト飲料、腹部マッサージ等行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤ではなく、ヨーグルトや牛乳など整腸作用のある食材を活用し日々採っていただいたり、定期的な水分補給を促すことで、便秘の予防に努めている。体操もできる限り行うように勧めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月水金、または 火木土の週 3回入浴としている。入浴剤を3種類揃え、又、入浴時間、順番、湯加減など、御希望を聞き、シャワー、シャワー・キャリー等の福祉用具を活用し安全に入浴が楽しめるよう取り組んでいる。	入浴は、13時から16時の間可能で、利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて、2日に1回は入浴できるように支援している。希望があれば毎日でも入浴できる。順番、湯加減、好みのシャンプーや入浴剤、季節の柚子湯等、本人の希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や部分浴、清拭、足浴など個々に応じた入浴の支援をしている。一人で入浴する利用者には、シャンプー、頭皮マッサージ、背中擦りを職員が行うようにしている。入浴後はクリームを塗布し、肌の保湿と皮膚観察を実施している。同性介護の希望の有無も確認しながら気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。入浴したくない人には時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫などをして入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、消灯、起床時間など一人一人の生活習慣やリズムに合わせている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の準備は、担当職員が行っており、それによって、理解も深まっているよう。薬剤情報提供書をファイルに綴じ、確認することで更に理解を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野の花摘みや貝殻集めが好きな方が多く、屋外ではとても喜ばれる。一人一人ができること、好きなこと、役割を持ち、共同生活に楽しみや喜びを見出せるよう支援している。	テレビやDVD、ラジオの視聴、本や雑誌、絵本、新聞を読む、写真集を見る、音楽を聞く、歌を歌う、発声練習、カラオケ、ピアノ生演奏での合唱、折り紙(クリスマス、正月飾りなど)、ぬり絵、貼り絵、日記を書く、しりとり、なぞなぞ、パズル、かるた、トランプ、、おはじき、脳トレ(漢字、四字熟語、間違いさがし、ことわざ、早口言葉)、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、プランターの水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、布団干し、盆拭き、台拭き、食器洗い、居室やホール、玄関の掃除、ブラインドの開閉、花を生ける、花瓶の水替え、縫い物、干し柿づくり、栗の皮むき、おやつづくり(ホットケーキなど)、誕生会、節分、七夕、クリスマス等、本人のできることややりたいことを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いをもって過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブまでにはならないが、近くの郵便局やちょっとした買い物などへも、同乗してもらったり、車で5分の所には、砂浜があり、行き帰りも含めて30分で遊べもします。外気を感じることで、気分転換につなげ、活動量の増加に努めている。	季節を楽しむドライブでの花見(桜、コスモス、紅葉など)やどんど焼き、秋吉台、R2めぐり、深溝、セミナパーク、長沢の池、小鯖、山口宇部空港、本由良、防府、矢原、鑄銭司、自宅周辺、菩提寺の墓参りなど、毎週日曜日のドライブの日以外も、ケアの合間をみて、ドライブ外出ができるように支援している。病院への受診支援の行き帰り、季節の野菜や果物の収穫(柿もぎ、栗拾い、サツマイモ掘り、ふき取り)、海岸やあぜ道、敷地内の庭や近くの住宅街などの散歩、商店での買い物、郵便局、家族の協力を得ての美容院への外出、外食、仏壇のお参りなど、日常的に外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族に預り金をお願いしており、職員が管理しそれで少しの買い物をしている。病院受診時に支払いのできる方には、そうして頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々「無くなった」と探しておられるので、こちらで預かるようにしたが、携帯電話をお持ちの方がおられ、時々は掛かって来たり掛けたりしておられる。済めば再び預かります。希望時には電話の取り次ぎ手紙の支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員に少しお願いしたところ、外の花壇の花が絶えないようにしてくれて、皆さんも外へ出る毎に見て喜んで下さる。季節行事の飾り、折り紙、生花、観葉植物を配置し採光や照明や温度についても一人一人に合わせて対応し居心地の良い空間作りを行っている。	玄関からリビングへと続く共用空間は、天井が高く、海側の窓からの日差しが明るく、観葉植物やクリスマスツリー等で心和む空間となっている。リビングには畳の間がある他、ホールにはピアノがあり、その前には大きなソファを配置して、利用者は思い思いの場所でゆったりとくつろいでいる。折り紙や手作りのカレンダー、下げ物などを飾り、ホワイトボードには1日の献立が書いてある。対面式の台所からはご飯を炊くにおいや食器を洗う音がして生活感を感じることが出来る。温度や湿度、換気に配慮し、定期的に消毒をして、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の食卓やテレビ前のソファは、くつろいで集える場所になっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や職員作成の誕生日用写真プレート、思い出の品など、各部屋ごとに、特に担当職員が工夫をして飾っている。馴染みのある品を持って来て下さるよう御家族に依頼している。	ベット、寝具、箆簞、衣装ケース、三段ボックス机、椅子、テレビ、時計、写真、雑誌、化粧品、日用品など使い慣れたものを持ち込み、本人や家族の写真、カレンダー、ぬいぐるみ、自作の猫の絵や手作り作品、誕生日の飾り、散歩時に積んだ野の花や海辺で拾ったの貝殻などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が少し不安定になった方の為に、廊下の手摺りを追加設置した。居室入り口やトイレには案内板や目印を作り、分かり易く大きく記入し工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 海に見えるグループホームしおさい

作成日: 令和 4 年 10 月 5 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	新型コロナウイルス感染防止の為に、中止している。	書面開催で、現状および課題の報告を行うとともに、意見・要望を得るようにする。	現状および課題の報告に、返信用封筒を同封する。	1年間
2	14	内部研修では、職員一人一人に考えて貰えるような課題・道筋を、と具体的な事は出さずに行っていたが...	より良い認知症対応の介護に向けて。	良い具体例、悪い具体例を示して行う。	1年間
3	全般	食事などの時間を決めているが、遅れないように...と次第に早くなっており、入居者を急がす素地を作っているのではないかな。	ゆっくりゆったりと時を過ごせるように。 職員が入居者を急がすことのないように。	遅くなっても問題はなく、退社時間になれば、途中であっても、退社して構わなく、次の勤務が継続してゆくようにする。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。